

自治体SDGs推進のための有識者検討会（第2回）の開催結果について

（概要）

○日時：平成29年7月7日（金）13:00～15:00

○場所：永田町合同庁舎 7階特別会議室

○出席委員：村上座長、秋山委員、浅見委員、蟹江委員、城山委員、関委員、竹本委員、藤田委員

○実施内容：

「環境未来都市」構想の実績を踏まえ、地方創生における自治体SDGs達成のための取組を推進するにあたっての基本的考え方を取りまとめつつ、施策の基本的方向について提言することをねらいとし、横浜市及び北九州市のヒアリング及び「自治体SDGs推進のための論点」について議論を行った。

○主な意見：

1. ステークホルダーヒアリング関連

（A. 横浜市との質疑応答）

A-1 Q. SDGsの17のゴール全てを対象とするのではなく、選択的に進めていくことが、前回の検討会でも議論となった。今後、横浜市として、この分野にフォーカスを当てるとか、あるいは既存の環境未来都市の事業を紐づけていくとか、具体的な進め方の計画はあるか？（

A-1 A. 内部でも様々な議論があり、結論は出ていないが、得意とする分野に集中的に取り組む方向の議論が多くなっている。17のゴール全てを対象とすると、〇×式になり、できていない部分が目立つことになってしまった。また、国際的に発信していく場面においては、17のアイコンが非常に重要だが、市内で取組を進める際には、その有効性に疑問の声もある。

A-2 Q. SDGsは概念的に理解が難しいが、具体的な取組は市民一人一人が動くことが必要。市民に向けてはSDGsをどう説明、普及しているか？また、財源の確保が重要だと考えるが、工夫などはあるか？

1 A-2 A. SDGsについて、市役所内部で勉強会が立ち上がったところだが、市民向けの
2 普及の段階にはまだ至っていない。また、予算の確保は各局が頑張っているところ
3 で、国とも連携して進めていきたいが、市としてSDGsのこの分野にいくら、と
4 という財源配分はできていない。

5
6 A-3 Q. 市会でもSDGsに触れているという説明があったが、市会議員もSDGsに関
7 心を持っているということか？

8
9 A-3 A. 市会では、市長から予算の関連でSDGsについて触れた。市会議員からは、世
10 界平和の観点からSDGsを活用できないかということで、議論が進められてい
11 る。

12
13 A-4 Q. 環境未来都市のさらなる推進・進化を図っていくとあるが、それはSDGsと関
14 連性はあるのか、無関係なのか？

15
16 A-4 A. 横浜市として将来の都市像に向けてやるべきことを選択して、地域の特徴、地域
17 資源を活用して環境未来都市としてイノベーションを起こしていくことが必要。そ
18 れが結果的に海外展開で役に立つと考えている。上下水道などの都市インフラとし
19 てベーシックな問題と、横浜市として得意な分野、両方を合わせて展開していく。

20
21
22 **(B. 北九州市との質疑応答)**

23 B-1 Q. 縦割りの組織に横串を通すにあたり、今の組織の現状や工夫などはあるか？

24
25
26 B-1 A. 自治体の良いところは、トップがやると言えばトップダウンで進んでいくところ。

27
28
29 B-2 Q. 今後の取組について、今の取組の延長のような面もあると思うが、一方で、貧困
30 などは深刻な問題であり、取り組むのもかなり大変。そのあたりは施策にどのよう
31 に反映させようとしているのか？

32
33 B-2 A①. 次期環境未来都市はまずはトリプルボトムラインの取組が基本。貧困+経済な
34 ど、各局の横つなぎで取り組み、横浜市ならではのイノベーションを起こす、チャ
35 レンジングな取組を選択していきたい。単独の局で対応する取組は総合計画でカバ
36 ーし、解決していく。

37
38 B-2 A②. 17 のすべてのゴールを達成できる万能な都市があるとは思っておらず、特徴

1 的なものに取り組んでいく。とはいえ、それ以外のことはやらないということでは
2 なく、課長級の勉強会も始めており、今後必要になることであろう課題にフォーカ
3 スしていきたいと考えている。

4
5 **(C. 意見)**

6 C-1. 横浜市、北九州市とも大きな自治体。一方で、北九州市ではすでに人口減少に突入
7 しており、その中で持続可能な、快適で健康なまちづくりという視点では、日本は
8 先進国。シュリンキングソサエティは、グローバルな問題になっている。また、全
9 体の人口が減少する中で、都市には人口が集中している。その中で持続可能なまち
10 づくりを進めることが日本にとっては重要だと考えている。

11
12 C-2. 地域資源の活用という点では、環境未来都市の取組が参考になる。特に被災地では、
13 もともと少なかった資源が震災でさらに少なくなった中で自治体がコーディネート
14 しながら取組を進めてきた。人口減少はイノベーションの宝庫であり、テクノロ
15 ジーを活かしながら、日本がリードしていくべき。

16
17 C-3. 北九州市は日本全体の3~40年先を表しており、北九州市の取組が成功するかどう
18 かは注目を浴びている。人口を増やすことも考えるが、行政としては減っていく中
19 で、いかにまちを維持するかも考えなければならない。

20
21 C-4. 人口減少、高齢化はグローバルな問題。バングラディッシュやアフリカの国で、慢性
22 疾患が死因の上位になってきている。こうした問題に、日本が先進国として成功例
23 を示していくべき。

24
25 C-5. 人口減少、高齢化の中で、いかに持続可能な開発、を生み出せるか。

26
27 C-6. 自分たちのまちの現状や課題に、市民一人一人が気づくかどうか重要。環境未来
28 都市をきっかけに、自治会が高齢化に取り組んでいく、こうした取組が日本らしい
29 SDGsの取り組み方であると思う。今の資源、現状を見据え、自分たちで決定し
30 ていく、このプロセス自体にSDGsの考え方をに入れていくという良いヒントにな
31 る。

32
33 C-7. 全体構想の中で国の役割をより明確にすべき。2000年以降の地方分権の中で、自治
34 体がすべて任されるというのは、自治体にとっては厳しい状況。北九州市のように、
35 いくつかの補助金を活用し、民間からの投資を活用して官民連携で進めたというの
36 は、国の財源の良い活かし方だと思う。

37
38 C-8. 取組の手始めとして、それぞれの自治体で取り組む、モデル事業のようなもの、そ

1 れがうまくいけばパッと広がっていくような取組があるといいのではないかと思う。

2. 有識者検討会における論点ごとの事務局整理案関連

<D. 全般>

7 D-1. 国際協力、国際連携、海外発信のキーワードに関連するが、SDGsのメリットは、
8 世界共通の言語であること。取組の中身は違えども、共通の概念がある、という理
9 解のもと、文章を整理するとよい。

11 D-2. 途上国への都市輸出を考えるとときには、自分たちの得意な部分だけでなく、SDG
12 sの17のゴール全てをしっかりと認識することが重要。

14 D-3. 日本の取組をナレッジ化して、グローバルスタンダードにしていくにあたり、SD
15 Gsが活用できる。17のゴールの中で、すでに達成されている部分と、まさにチャ
16 レンジしている部分と両方がある。この2つを意識して、SDGsの使い方を示す
17 必要がある。

<O はじめに>

(E. 地域課題の可視化、設定)

22 E-1. 環境モデル都市、環境未来都市では、政府が課題を設定した。SDGsにおいては、
23 自分たちでまちの課題を見つけてほしいという考え方がある。

25 E-2. 環境未来都市の良かった点は、複数課題に同時に取組み、シナジー効果を生み出し
26 た点だが、これはあくまで課題解決の手法。SDGsにおいて、自治体はまず何を
27 やるべきか、情報を整理して、地域課題の可視化が非常に重要。情報という資源を
28 自治体がどう取り扱うのか、ここをしっかりと明示すること。

30 E-3. 地域課題の可視化に、どのようにアプローチするか、いくつかオプションを提示す
31 べき。

33 E-4. 従来、環境問題は課題を可視化して頑張ってきたが、地域の活性化という、ディベ
34 ロップメントの目標については可視化してこなかった。SDGsでは、ここについ
35 て努力していきたい。

<I 「環境未来都市」構想について>

1 (F. 構想の成果)

2 F-1. 環境未来都市の成果は、SDGsの視点から整理すべきではないか。うまくいった
3 部分、一方で課題として設定していなかった部分は進んでいなかった、ということ
4 がわかると思う。

5
6 F-2. 成果の深堀について、例えば、柏市と下川町の比較をよくするのだが、柏市にはマ
7 ーケットがあり、下川町にはない。つまり、まちとしてのメカニズム、ステージが
8 異なっている。多様性という視点からの深堀をすることで、SDGsについてもバ
9 リエーションができるのではないか。

10
11 F-3. 環境モデル都市も環境未来都市も、小規模、中規模、大規模の都市をそれぞれ選定
12 してきた。環境問題は都市単位で整理できるが、経済活動については経済基盤が域
13 内に存在するかどうかで大きく異なる。経済基盤の有無も含め、各自治体がそれぞ
14 れのゴールをつくっていくのかを国が支援していく必要がある。

15
16 F-4. 環境未来都市の成果は、蓄積と新しい課題を、8：2程度で書き込んだ方が良い。
17
18

19 (G. 成功要因)

20 G-1. 環境未来都市の成功要因は、目標を可視化し、様々なステークホルダーと共有した
21 こと。
22

23 G-2. まずは環境未来都市の成果を可視化する必要がある。それは、①まず課題を可視化
24 したこと、②それから地域資源を掘り起こしたこと、③そして地域資源を活用して
25 課題を解決したこと。環境未来都市の11都市について、このポイントから整理す
26 る段階に来ているのではと思う。
27

28 <II 地方創生における自治体SDGs推進の意義（自治体や市民、民間企業等からの視点）>
29

30 (H. パートナーシップ)

31 H-1. ガバナンスの構造において、力を持っている消費者をどのように捉えるか。
32
33

34 H-2. パートナーシップについて、協調もあれば、ビジネスもあるはず。少し丁寧に書き
35 換えてニュアンスがわかるように書き込んだ方がよい。
36

37 <III 地方創生における自治体SDGs推進の意義（政府からの視点）>
38

1 (I. 政府として取り組む事項)

2 I-1. 出口として経済効果がないと地域の活性化にはつながらない。SDGsは目的では
3 なく手法であるということを説いていくことが重要。各自治体は地方版総合戦略を
4 策定し、実践してきた中で、地域課題を見つけ、総合的に取り組むことの訓練と実
5 践を積んでいる。そこで、SDGsの取組についても、考え方がSDGsであって、
6 実践は地方創生の取組であることを示すべき。地域課題の解決が、結果的には全国
7 規模、世界的規模の課題解決につながっていくことを示し、自治体の背中を後押し
8 してほしい。

9
10 (J. 資金面での支援)

11 J-1. 自治体にやってもらいたい、という明確な意思を示すことと、資金面を含む環境整
12 備をしっかりと書き込むことが必要。

13
14 J-2. 資金面は、国の資金だけでなく、官民の資金を効果的に活用していく制度の整備等
15 が重要。

16
17 **3. 各省の意見**

18
19 (K. 各省の意見)

20 K-1. SDGsの大切なキーワードとして、誰も取り残さないという視点がある。格差や
21 貧困、女性の社会進出など、既存の取組が、SDGsのそれらの分野をカバーして
22 いるということも入れていただきたい。

23
24 K-2. 企業の取組について、例えば日本では食品残さを飼料とするリサイクルループの取
25 組は、国内では以前より実施してきたが、海外ではあまり実施されていない。この
26 ように、SDGsとしてやっている意識がなくとも、世界に発信できるそういった
27 取組のアピールを支援していきたい。また、これまで温暖化対策の面で、途上国と
28 日本の都市間連携を支援してきた。今後SDGsにもフォーカスして取り組んでい
29 きたい。

30
31 K-3. 地方の中小企業は人手不足、高齢化問題を抱えている。また、空き店舗の問題もあ
32 る。一方で、農業は農商工連携を進め、地域を支える産業になるのではないかと考
33 えている。また、製造業はIoTによってここ10年で劇的に変わってきた。こうし
34 たことをSDGsに絡めて考えていくべき。

35
36 K-4. 質の高いインフラ投資の推進に取り組んでいるが、SDGsの取組の中でも連携で
37 きると感じている。

- 1 ○次回予定：
- 2 7月27日（木）10:00～12:00
- 3 NGO/NPO ネットワーク CSO ネットワーク事務局長の黒田かをり氏、博報堂 CSR グループ推
- 4 進担当部長の川延昌弘氏のヒアリングを実施し、さらに議論を深める。